

EPSON
EXCEED YOUR VISION

2015年度（2016年3月期） 第3四半期 決算説明会

2016年1月29日

セイコーエプソン株式会社

©SEIKO EPSON CORPORATION 2016. All rights reserved.

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新商品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

■ 事業利益について

事業利益は、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しております。

連結包括利益計算書上に定義されていない指標であるものの、日本基準の営業利益とほぼ同じ概念であることから、連結財務諸表の利用者がエプソンの業績を評価する上でも有用な情報であると判断し、追加的に開示しております。

■ 2015年度の開示セグメントについて

2015年4月に、SE15後期 新中期経営計画の総仕上げと、2015年度の事業計画達成、および2016年度以降を見据えた最適フォーメーションを構築するため組織変更を実施しました。これに伴い、2015年度から開示セグメントを、マネジメント・アプローチに基づき変更いたしました。なお、2014年度の実績も、2015年度との比較説明に表示する場合は、新しい開示セグメントに合わせて記載しています。

■ 本説明資料における表示方法

数値： 表示単位未満を切り捨て

比率： 円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

1) 2015年度 第3四半期決算

2) 2015年度 業績予想

決算ハイライト（第3四半期連結累計期間）



(億円)	2014年度		2015年度		増減額	増減率
	累計	%	累計	%		
売上収益	8,148	-	8,374	-	+226	+2.8%
事業利益	854	10.5%	727	8.7%	-126	-14.9%
営業利益	1,106 ※1 (806)	13.6% (9.9%)	819	9.8%	-287 (+13)	-26.0% (+1.6%)
税引前 四半期利益	1,126 (825)	13.8% (10.1%)	803	9.6%	-323 (-22)	-28.7% (-2.7%)
四半期利益	906 (605)	11.1% (7.4%)	552	6.6%	-353 (-53)	-39.0% (-8.8%)
EPS ※2	252.88 円		153.64 円		※1 2014年度1Qの営業利益に、一時的な利益となる年金制度改定益約300億円を計上。 ()内は、各利益から年金制度改定益を除いた参考値。	
換算 レート	USD	106.87 円	121.70 円			
	EUR	140.30 円	134.36 円			

※2 2015/4/1を効力発生日として1株につき2株の割合をもって株式分割を実施。EPSは、株式分割後の発行済み株式数（自己株式除く）により算出

3

■ 2015年度 第3四半期までの9ヶ月累計実績

- 売上収益は、前年同期に対し 226億円増収の8,374億円、
- 事業利益は、126億円減益の727億円、
- 四半期利益は、前年同期に、
- 一時的な利益となる年金制度改定益 約300億円を、
- 営業利益に計上していたことなどから
- 353億円減益の552億円。

決算ハイライト（第3四半期決算）

(億円)	2014年度		2015年度		増減額	増減率
	3Q実績	%	3Q実績	%		
売上収益	3,019	-	2,944	-	-75	-2.5%
事業利益	345	11.4%	325	11.0%	-20	-5.9%
営業利益	320	10.6%	401	13.7%	+81	+25.3%
税引前 四半期利益	320	10.6%	402	13.7%	+82	+25.6%
四半期利益	249	8.3%	290	9.9%	+41	+16.6%
EPS ※1	69.57 円		80.89 円			
換算 レート	USD	114.54 円	121.50 円			
	EUR	143.07 円	132.95 円			

※1 2015/4/1を効力発生日として1株につき2株の割合をもって株式分割を実施。EPSは、株式分割後の発行済み株式数（自己株式除く）により算出

4

■ 2015年度 第3四半期の実績

- 前年同期に対して、
売上収益は、75億円 減収の2,944億円、
事業利益は、20億円 減益の325億円、
四半期利益は、湘南事業所土地に関する
固定資産売却益を営業利益に計上したことなどにより、
41億円増益の290億円。

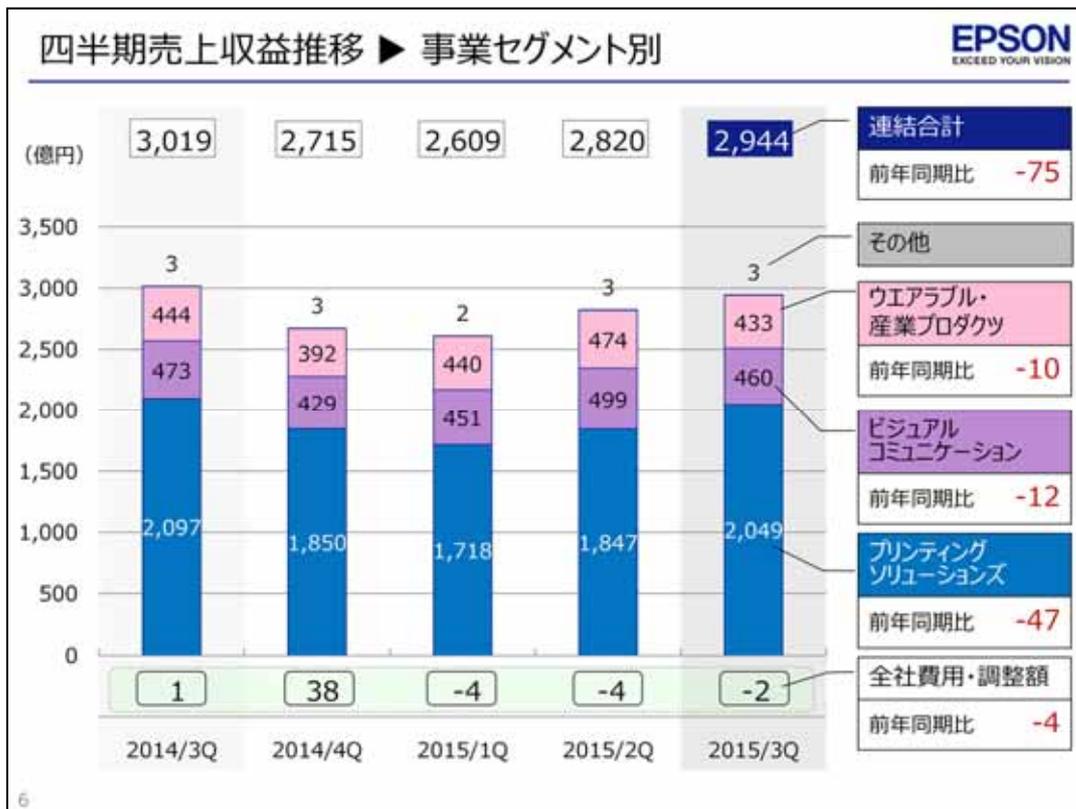
- ✓ 前回予想の前提として織り込んだ
リスク（マクロ環境・価格低下）が顕在化するも
概ね想定内
- ✓ 戦略の核となるSE15後期 新中期経営計画で定めた
取り組みは順調に推移
- ✓ その結果、第3四半期は、
セグメントごとで社内計画の進捗に濃淡があるものの、

全体では堅調

5

■ 2015年度 第3四半期業績の社内計画との比較

- まず、マクロ環境は、社内計画の想定に対し、中南米の通貨下落や景気低迷に加え、中国の景気減速の懸念も、より深まるなど、さらに厳しい状況になっている。
- このような中、エプソンが対象とする市場の販売環境は、政府系案件の減少やプロジェクター市場の前年度に対する減少など一部に影響が表れているが、それ以外で、想定に対する大きな変化は見られない。
- また、社内計画にリスクとして織り込んだインクジェットプリンターの価格低下については、インクカートリッジモデルは、北米を中心に概ね想定した範囲の動きであり、大容量インクタンクモデルも、他社の市場参入があったものの、現時点で想定範囲で推移している。
- 一方、戦略の進捗については、大容量インクタンクモデルは、通期の計画線に沿って前年度に対する販売拡大が継続し、インクの売上も、社内計画に沿って順調に伸長している。
- このように、前回業績予想の前提として織り込んだリスクが顕在化する中、戦略の核となる取り組みは順調に成果を挙げ、プリンティングソリューションズ、ビジュアルコミュニケーション、ウェアラブル・産業プロダクツの各セグメントでは計画の進捗に濃淡があるものの、概ね想定通りに推移した。
- 加えて、為替において、ユーロ高などによる若干のプラス影響もあり、第3四半期の事業利益は、全体で計画に対して堅調な結果となった。

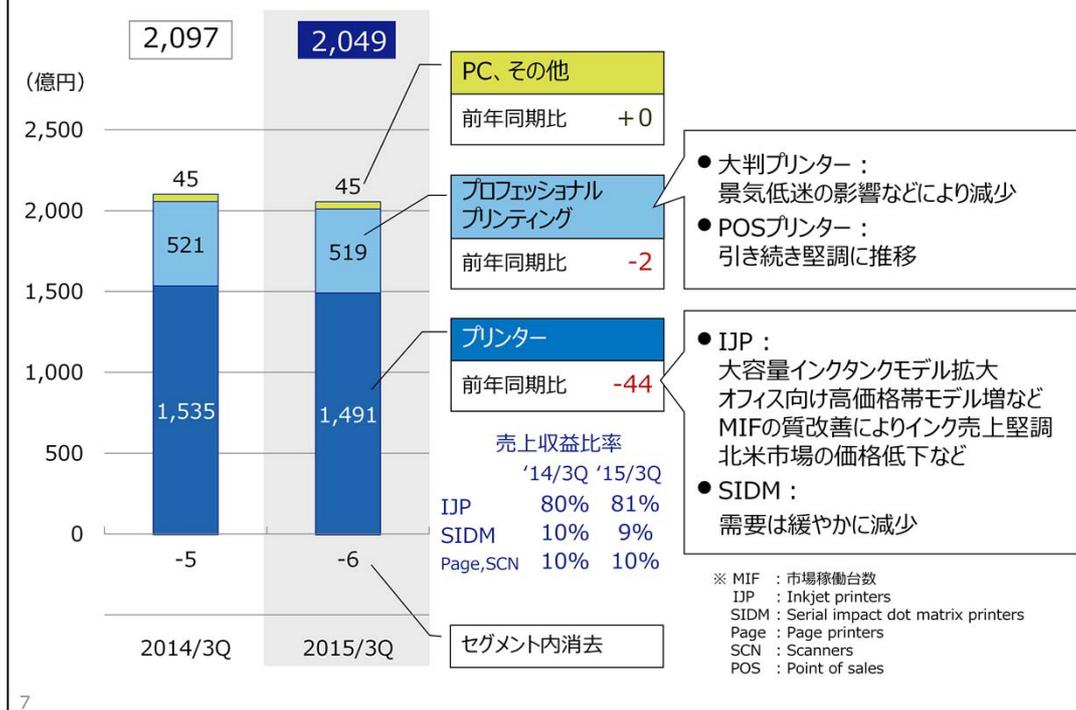


■ 事業セグメント別の 四半期売上収益推移

- 第3四半期は、前年同期に対し、
プリンティングソリューションズで、47億円の減収、
ビジュアルコミュニケーションで、12億円の減収、
ウェアラブル・産業プロダクツで、10億円の減収。
- なお、当四半期における売上収益の為替影響は、
中南米の通貨下落の影響も含め、
前年同期に対し約34億円のマイナス影響があった。
- ビジュアルコミュニケーションは、プロジェクターにおいて、
中南米などの景気低迷や、欧米を中心に政府系教育案件の減少などにより、
市場が、前年度に対して縮小傾向で推移した。
このような環境下においても、エプソンは、3LCDの特長を生かした
幅広いラインナップにより市場シェアが拡大し、
販売数量は概ね前年同期並みを達成したことで、
若干の減収に留まった。

四半期売上収益比較 ▶ プリンティングソリューションズセグメント

EPSON
EXCEED YOUR VISION



■ プリンティングソリューションズ事業セグメントの第3四半期売上収益

▶ プリンター事業では、インクジェットプリンターが

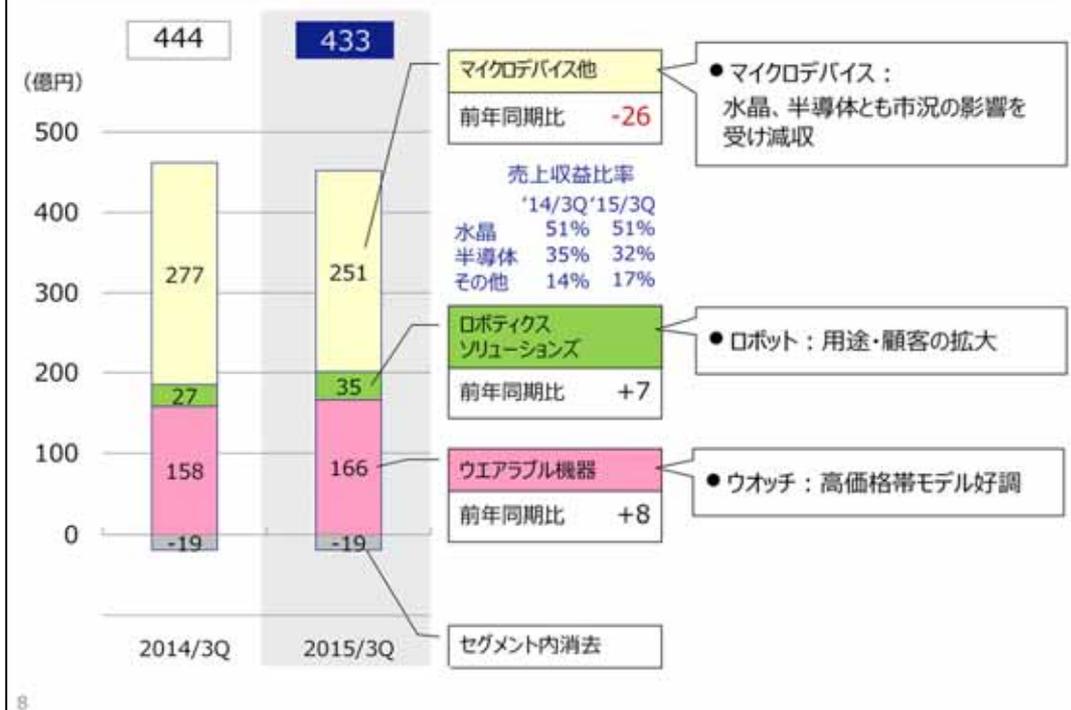
戦略の根幹となる大容量インクタンクモデルで、地域により経済環境の影響を受けて好不調はあったものの、前年度に対し販売数量を拡大させる年間計画に沿って順調に推移した。

オフィス向けインクジェットプリンターでは、インクカートリッジモデル全体の本体販売数量が漸減する中でも、プレジジョンコアプリントヘッドを搭載した高価格帯モデルが大幅に伸長し、このような過去からのMIFの質改善効果により、インクの売上が、欧米市場を中心に堅調に推移した。

一方、中南米の通貨下落に対しては、商品の値上げを随時行っているものの、北米における本体の価格低下や、日本市場において家庭向け本体の市場縮小などによる数量減や価格低下があり、インクジェットプリンター全体では若干の減収となった。

- ▶ また、SIDMは、中国市場の徴税用需要が安定的に推移しているものの、南米などの需要が緩やかに減少していることから、減収となった。
- ▶ ページプリンターは、低価格帯の絞り込みを行っていることなどから減収となり、プリンター事業全体でも減収となった。
- ▶ プロフェッショナルプリンティング事業は、大判プリンターの需要が、景気停滞の影響を受けて低調だったことに加え、A3フォトモデルなどでも競合の価格攻勢が継続した一方で、POSプリンターで、北米市場の大型店舗向けを中心に販売が増加したことにより、上期に引き続き堅調に推移し、事業全体では前年同期並みを確保した。

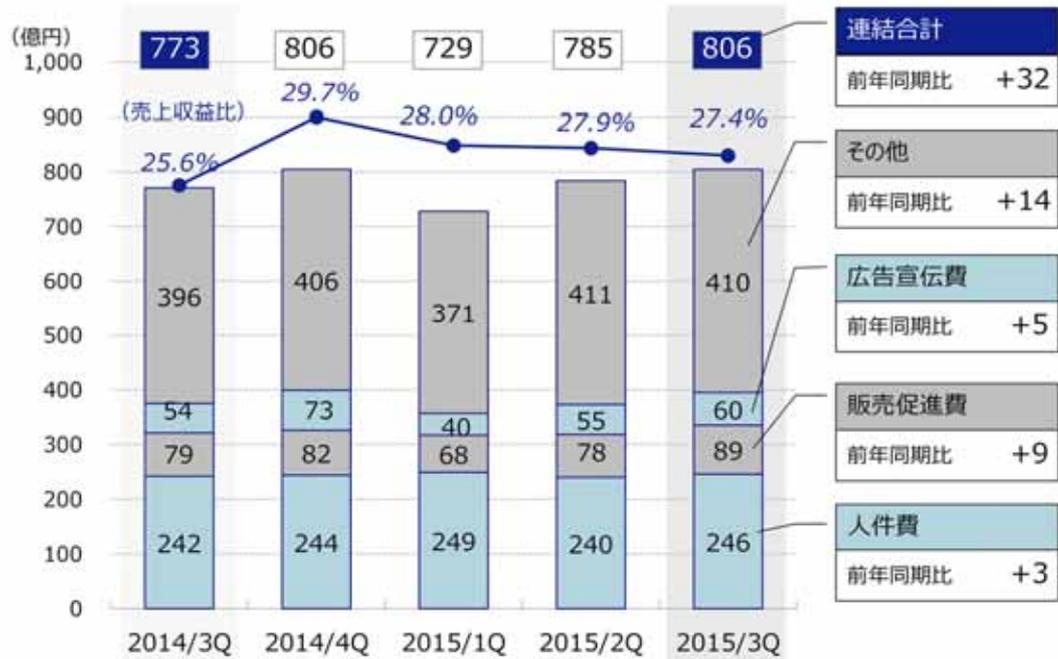
四半期売上収益比較 ▶ ウェアラブル・産業プロダクツセグメント **EPSON**
EXCEED YOUR VISION



■ ウェアラブル・産業プロダクツ事業セグメントの第3四半期売上収益

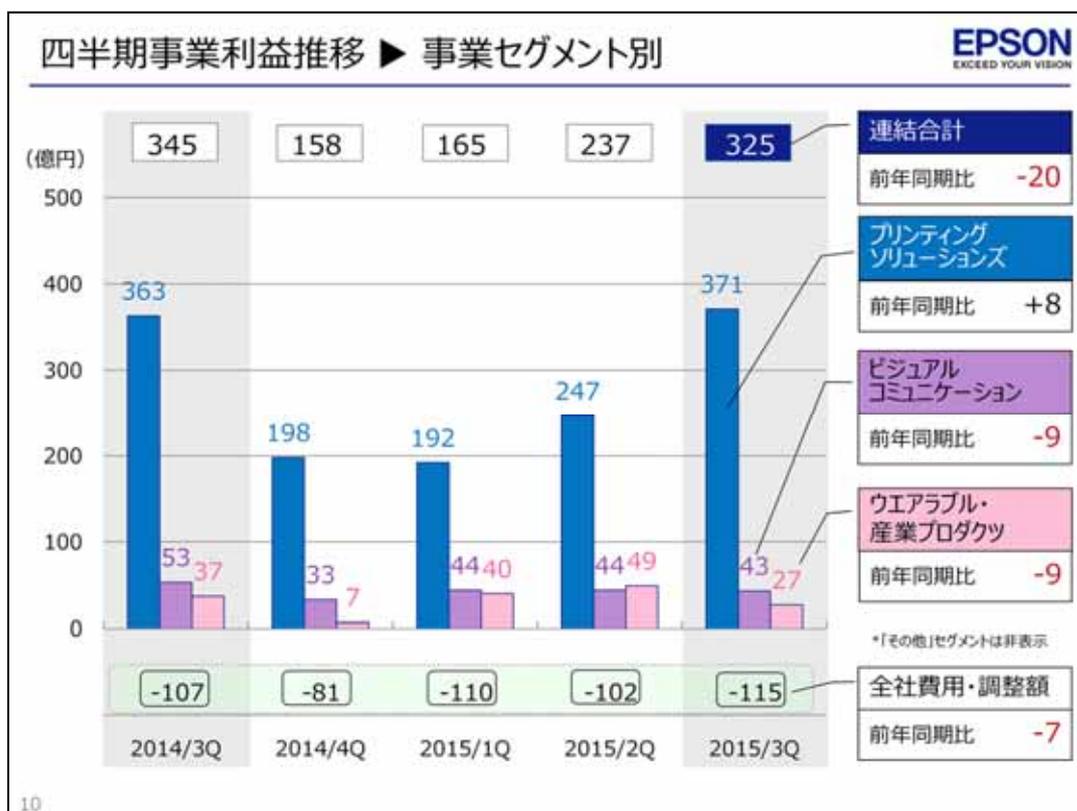
- ウェアラブル機器は、国内向けウォッチで、インバウンド需要の伸びが徐々に落ち着き始めた中においても、前年同期に対して、高価格帯モデルが好調に推移したため、増収となった。
- ロボティクスソリューションズは、アプリケーションや顧客需要の拡大を着実に取り込み、前年同期に対して増収となった。
- マイクロデバイス他事業は、水晶で、ネットワーク関連・通信基地局向けが増加した一方で、パーソナル機器向け需要が減少したことにより、また半導体で、前年度好調であったファブリーや外販が、市況の影響を受けて減少したことなどにより、それぞれ減収となった。金属粉末事業や表面処理加工事業の、その他事業が、上期から継続して順調に拡大しているものの、マイクロデバイス他事業全体で、減収となった。

四半期販売費及び一般管理費推移



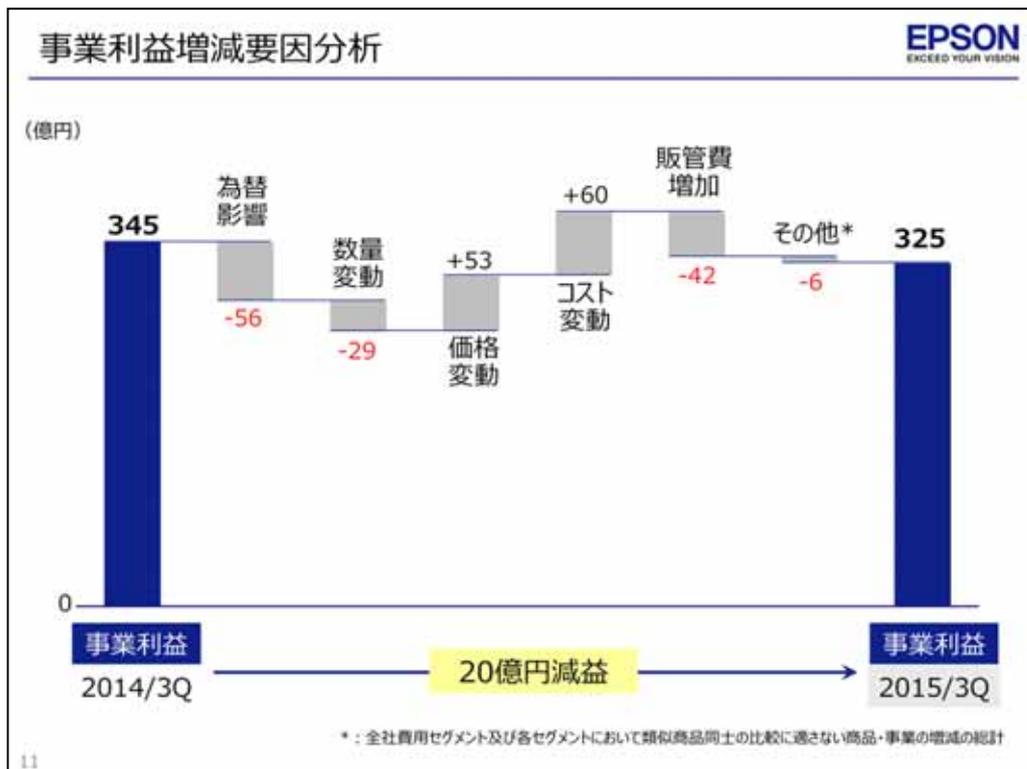
■ 販売費及び一般管理費の四半期推移

- 第3四半期の販売費及び一般管理費は、ブランド強化や新規領域におけるプロモーション活動などの広告宣伝費ならびに販売促進費の増加、および、研究開発費の増加などにより、前年同期に対し32億円の増加となった。



■ 事業セグメント別の四半期事業利益推移

- 第3四半期は、会社全体で前年同期に対し20億円の減益となる325億円となった。
- 為替の影響は、ドル高による製造コストの上昇に加え、ユーロ安や中南米の通貨下落もあり、前年同期に対しマイナス56億円。
- プリンティングソリューションズでは、プリンター事業が、北米市場や日本市場における本体の価格低下に加え、戦略的費用の投入や為替によるマイナス影響などがあったものの、大容量インクタンクモデル、および欧米市場におけるインク売上の増収効果、インクカートリッジモデル本体の生産投入数量減などもあり、前年同期並みとなった。
- プロフェッショナルプリンティング事業は、大判プリンターが減収の一方、POS用プリンターが堅調であったことから、若干の増益となった結果、セグメント全体でも、若干の増益となった。
- ビジュアルコミュニケーションは、前年同期を若干下回る売上収益に対し、戦略的な新商品の開発費用や為替によるマイナス影響などにより減益となった。
- ウェアラブル・産業プロダクツは、水晶での合理化の進展や製造現法における為替のプラス効果による増益に加え、ロボティクスソリューションズなどの増収による増益があったものの、半導体の減収の影響を受け、セグメント全体では減益となった。



■ 事業利益の前年同期比の要因分解

- 為替影響は、USD高、ユーロ安、中南米の通貨下落などにより、約56億円のマイナス影響があった。
- 数量変動では、プリンター事業におけるSIDMやページプリンターに加えて、景気低迷の影響などを受けたプロフェッショナルプリンティングにおける大判プリンター、および半導体、水晶事業などによるマイナス影響があった。
- 価格変動では、プリンター事業などで価格低下があったものの、中南米における通貨変動に連動した価格調整の実施や、ウオッチにおいて高価格帯の販売が好調に推移するなど、各事業のモデルミックス変動などによるプラス影響があった。
- コスト変動では、プリンター事業のインクカートリッジモデル本体の生産投入数量の減少や各事業のコスト削減、モデルミックスなどによるプラス影響があった。
- 販管費は、研究開発費や販売促進費で成長に向けた戦略的費用投入などがあり、増加した。
- この結果、事業利益は、為替影響を除くと、数量変動と販管費増加などのマイナス影響を、価格変動とコスト変動のプラス影響が上回り、前年同期を上回る結果となった。

財政状態計算書主要項目推移

資産合計（総資産）



棚卸資産



12

■ 財政状態計算書の主要項目

- 資産合計は、売上債権及びその他の債権や、有形固定資産の増加の一方で、現金及び現金同等物の減少などにより、前期末に対して40億円減少した。
- 棚卸資産は、ほぼ前期末並みの水準となった。

有利子負債・有利子負債依存度



親会社の所有者に帰属する持分・親会社所有者帰属持分比率
(自己資本・自己資本比率)



13

■ 財政状態計算書の主要項目

- 有利子負債は、
社債の償還などにより、前期末に対して303億円減少した1,556億円となり、
資産合計の有利子負債依存度は15.5%になった。
- ネットキャッシュは、636億円となった。
- 親会社の所有者に帰属する持分は、前期末に対して242億円増加したことで、
親会社所有者帰属持分比率は51.7%となった。

- 1) 2015年度 第3四半期決算
- 2) 2015年度 業績予想

2015年度業績予想



(億円)	2014年度		2015年度				前期実績比		10/29
	実績	%	10/29予想	%	今回予想	%		実績比	予想比
売上収益	10,863	-	11,000	-	11,000	-	+136 +1.3%	-	±0 ±0.0%
事業利益	1,012	9.3%	820	7.5%	820	7.5%	-192 -19.0%	-	±0 ±0.0%
営業利益	1,313 ※1(1,013)	12.1% (9.3%)	910	8.3%	910	8.3%	-403 -30.7%	(-103) (-10.2%)	±0 ±0.0%
税引前利益	1,325 (1,024)	12.2% (9.4%)	880	8.0%	880	8.0%	-445 -33.6%	(-144) (-14.1%)	±0 ±0.0%
当期利益	1,127 (827)	10.4% (7.6%)	600	5.5%	600	5.5%	-527 -46.8%	(-227) (-27.5%)	±0 ±0.0%
EPS ※2	314.61 円		167.70 円		167.70 円		●今回予想 4Qの為替レート前提 USD : 115.00円 / EUR : 125.00円		
換 算 レ ー ト	USD	109.93 円	118.00 円		120.00 円		●為替感応度 -1円安での事業利益への影響 USD : △4億円 / EUR : +8億円		
	EUR	138.77 円	130.00 円		132.00 円		-1%円安の場合の事業利益への影響 USD/EUR以外の合計 : +12億円		

※1 2014年度営業利益には、一時的な利益となる年金制度改定益約300億円を計上。()内は、各利益から年金制度改定益を除いた参考値。

※2 2015/4/1を効力発生日として1株につき2株の割合をもって株式分割を実施。EPSは、株式分割後の発行済み株式数(自己株式除く)により算出

15

■ 2015年度通期の業績予想

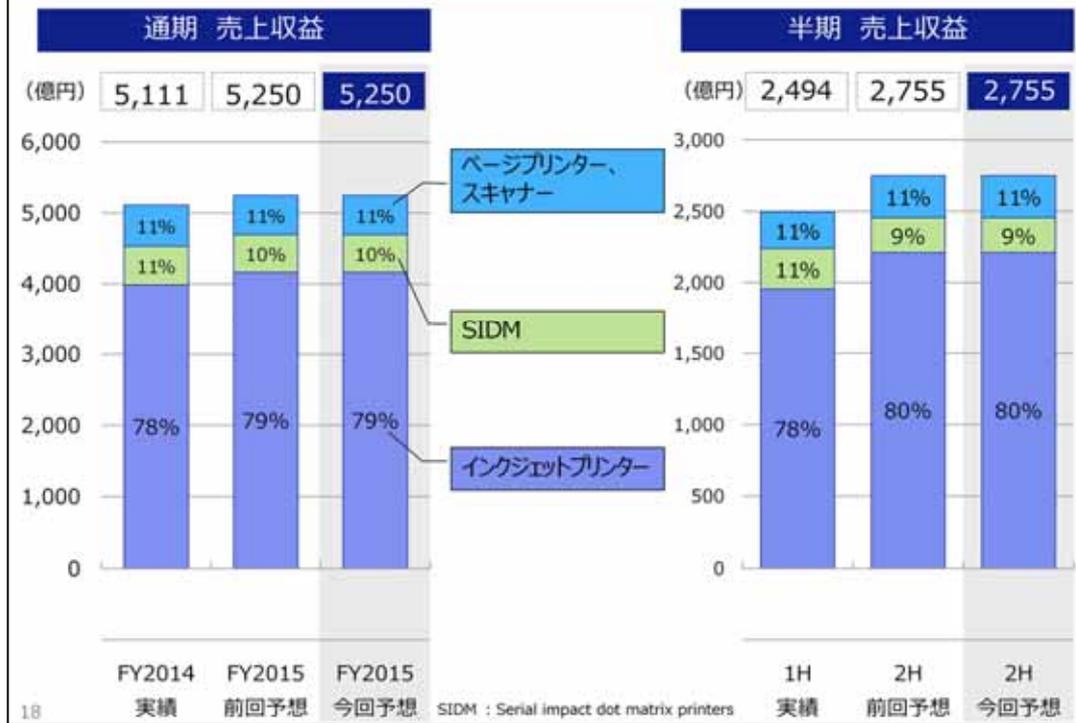
- 売上収益は 1兆1,000億円、
事業利益は 820億円、
営業利益は 910億円、
当期利益は 600億円を予想。
- 第3四半期の実績が、各セグメントともに前回開示した業績予想の前提となる計画に沿って順調に進捗していることから、今回、通期の業績予想の変更はない。
- 第4四半期以降の前提となる為替レートも、前回予想前提と同じUSD115円、ユーロ125円。
- また、期末配当の見通しも、前提とする通期事業利益予想を据え置いたため、前回見通しと同じ、1株当たり30円とする。
- なお、事業利益に対する年間の為替の感応度は、USDが1円の円安で4億円のマイナス影響、ユーロが1円の円安で8億円のプラス影響で、変更ない。
- 外貨の売上収益ベースで、残りの4割程度を占める、その他の通貨については、このその他の通貨すべてが1%円安となったと仮定した場合、年間で12億円のプラス影響となる。

事業別売上収益予想 ▶ プリンティングソリューションズセグメント **EPSON**
EXCEED YOUR VISION



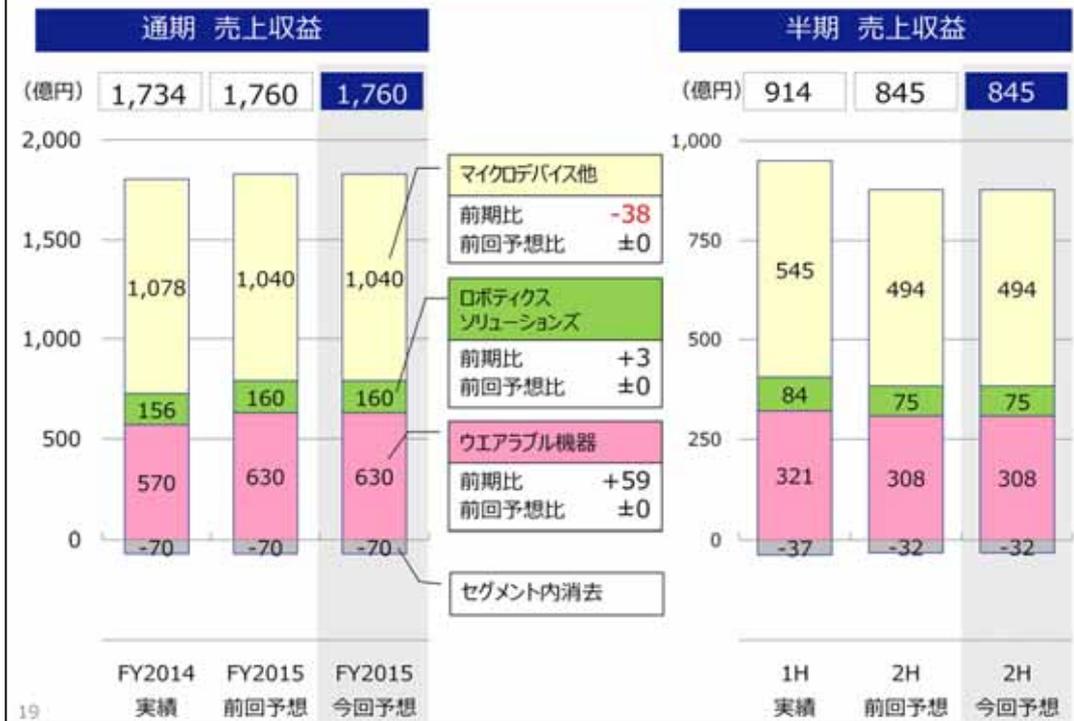
- プリンティングソリューションズ事業セグメントの事業別売上収益予想、上期・下期別内訳
- プリンター事業は、通期で5,250億円、プロフェッショナルプリンティング事業は、通期で2,000億円。

事業別売上収益予想 ▶ プリンター事業



- プリンター事業の製品別売上収益予想、上期・下期別内訳
- 通期のインクジェットプリンター本体の販売数量見通しは、前回見通しである前年度比プラス3%から変更はない。

事業別売上収益予想 ▶ ウェアラブル・産業プロダクツセグメント **EPSON**
EXCEED YOUR VISION



- ウェアラブル・産業プロダクツ事業セグメントの事業別売上収益予想、上期・下期別内訳

事業別売上収益予想 ▶ マイクロデバイス他事業



■ マイクロデバイス他事業の製品別売上収益予想、上期・下期別内訳

2015年度業績予想（事業利益） ▶ 事業セグメント別



■ 事業利益の事業セグメント別予想、上期・下期別内訳

- 通期のセグメント別事業利益も、前回業績予想から変更はなく、
 プリンティングソリューションズが 990億円、
 ビジュアルコミュニケーションが 160億円、
 ウェアラブル・産業プロダクツが 120億円を予想。

設備投資・減価償却費見通し



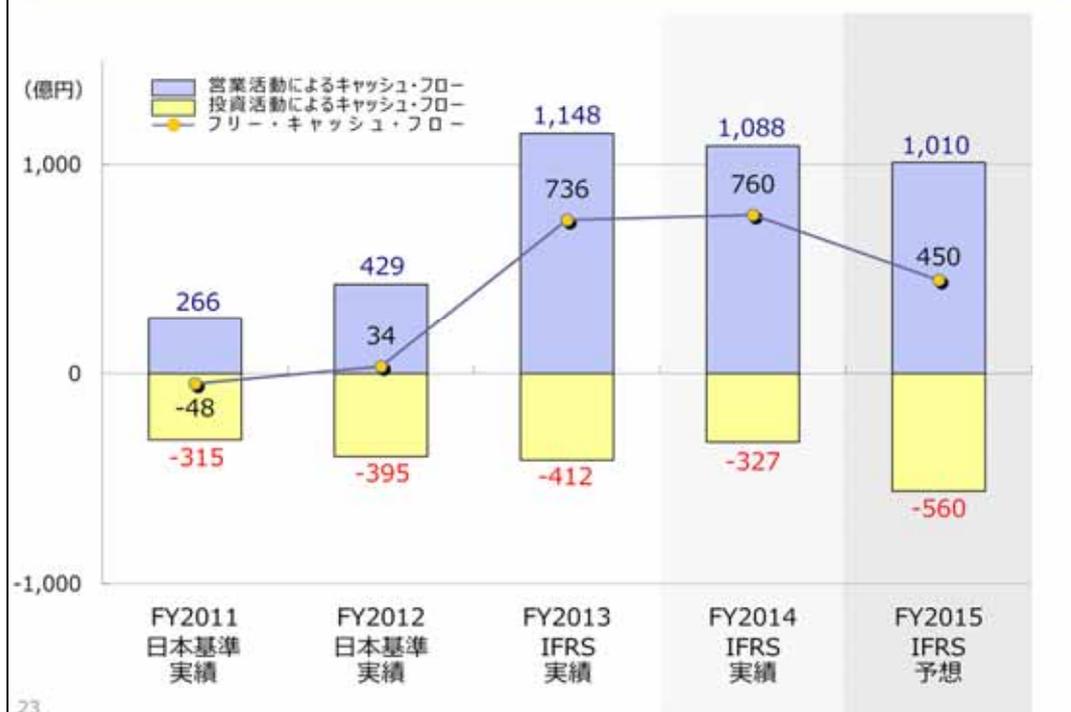
<セグメント別内訳>	FY2014 実績		FY2015 予想	
	設備投資	減価償却費	設備投資	減価償却費
プリンティングソリューションズ	221	230	390	250
ビジュアルコミュニケーション	68	72	100	80
ウェアラブル・産業プロダクツ	83	80	90	90
その他・全社費用	80	61	120	50

22

■ 設備投資と減価償却費

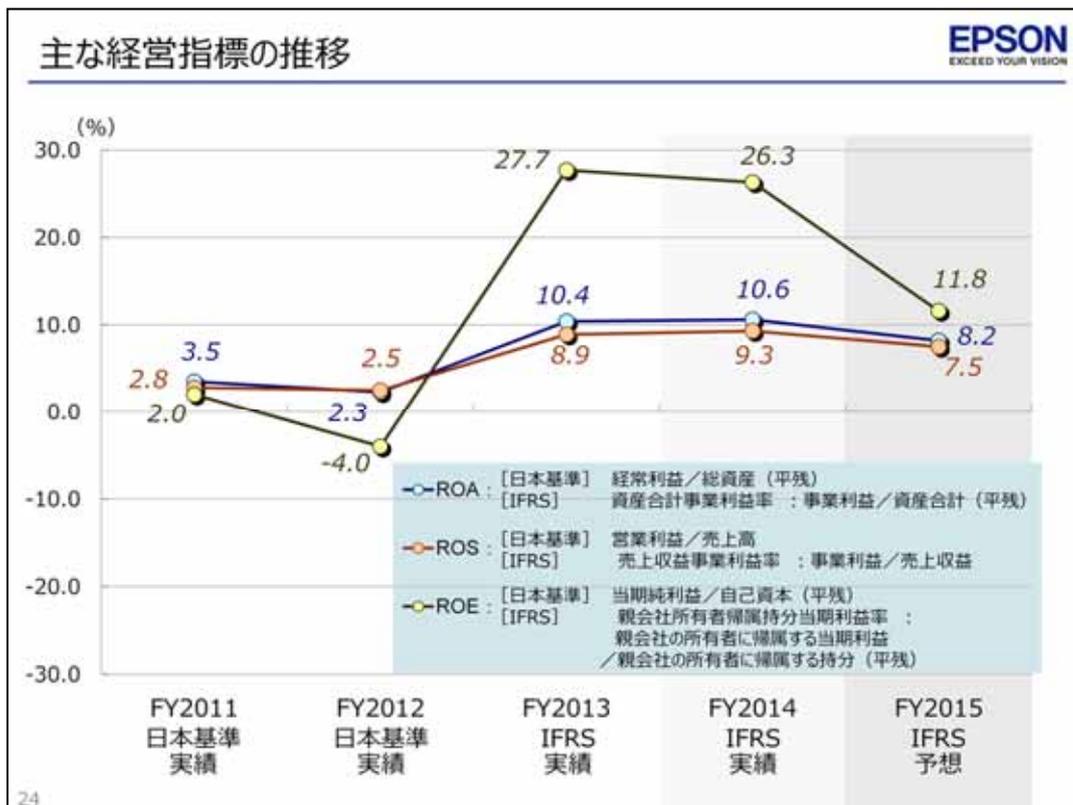
- 設備投資は、前回予想と同じ700億円、減価償却費も、前回予想と同じ470億円を見込んでいる。

フリー・キャッシュ・フロー見通し



■ キャッシュ・フロー

- キャッシュ・フローも、前回予想から変更はない。
- 2015年度は
営業活動によるキャッシュ・フローが、1,010億円、
投資活動によるキャッシュ・フローが、560億円、
フリー・キャッシュ・フローが、450億円の予想。



■ 主な経営指標

ROSが 7.5% ROAが8.2% ROEが11.8%

- この第3四半期は、経済環境が厳しい状況にある中、戦略の進捗も含め、社内計画に沿って堅調に推移したと考えている。
- 第4四半期は、さらに厳しい経済環境が見込まれるが、中長期的な利益成長を目指した戦略的費用の投入など、今期の取組みを確実に遂行するとともに、売上の確実な達成、費用の執行段階における再精査を行い、通期事業利益820億円の達成を目指していく。
- このように、現在の「SE15後期 新中期経営計画」を進めてきた中で、中長期的な利益成長につながる戦略が成果を上げ、その方向性については確かな手応えを感じている。そして、この成果を土台にして、さらに中長期にわたり持続的成長が可能な技術基盤、事業構造を作り上げる必要があると考えている。
- 従って、次期中期経営計画は、中長期的なカタリストとなる商品投入に向けた投資、および戦略の実現に必要なバリューチェーン上の基盤の更なる強化などもしっかりと行い、中長期的な基盤構築と足元の利益拡大のバランスをとったものにしたいと考えている。
- 詳細は、3月17日に予定している次期中期経営計画の説明会で説明したいと考えている。

EPSON
EXCEED YOUR VISION